

自然環境NPO法人の役割と可能性を考える

釧路地域においては、貴重な湿原の保全や、ワイズユースに自然環境NPOが重要な役割を果たしてきており、自然再生事業等の新たな取り組みにおいて事業主体として位置づけられるなど、他地域に先駆けた自然環境NPOのモデルとなっています。

地域経済研究センターは、平成15年度において、日本政策投資銀行地域政策研究センターと「自然環境NPO法人の役割と可能性に関する研究 - 釧路地域を事例に - 」の共同研究を進めてきましたが、このたび研究報告書がまとめられたのを機に、本研究概要の発表を行うとともに、地域のNPO法人の方々に参加いただいて地域住民の方々と一緒に、この問題を考える場として、共同研究フォーラムの開催を企画しました。

1 基調報告

『自然環境NPO法人の役割と可能性に関する共同研究の概要について』

前日本政策投資銀行地域政策研究センター主任研究員 阿部欣司氏

『自然環境NPO法人の新たな地域活動主体としての可能性』

釧路公立大学地域経済研究センター 小磯修二教授

『社会の問題解決とNPO』

釧路公立大学経済学部 西村友幸助教授

2 パネルディスカッション

テーマ：自然環境NPO法人の役割と可能性を考える

パネリスト：阿部欣司氏、西村助教授に加えて

NPO法人釧路湿原やちの会 佐藤吉人事務局長

NPO法人トラストサルン釧路 黒沢信道理事

NPO法人霧多布湿原トラスト 三膳時子理事長

コーディネーター：釧路公立大学地域経済研究センター 小磯修二教授

釧路公立大学 1階 第1会議室

2004年4月24日(土) 午後2時～4時30分